

北部老人福祉センター

H27.2.12

生活相談員 原田 喜世子
松岡 昌代

◆北部老人福祉センター状況

サービス提供時間 9:45～15:15 月曜日～土曜日

現在利用者 50名（男性20名、女性30名） 一日平均 20.9人 平均 83.46歳

支援 1:0 支援 2:3名 介護 1:16名 介護 2:17名 介護 3:9名 介護 4:4名 介護 5:1名

職員:正職員2名 常勤パート職員7名 非常勤パート職員7名 看護師4名 シルバー3名

職員配置:一日 約12名（午後は約8名）

深谷地区在住者 42名（84%）・・・送迎時間がかかりません

◆北部老人福祉センターの特例のサービス

- ・「遅く迎えに来てほしい」、「早く迎えに来てほしい」、「排泄が済んだ時間に迎えに来てほしい」、「早く帰りたい」「昼食を食べずに帰りたい」という希望に対応することで利用が継続できるようになりました
- ・お迎えを待っている間に畑に行ってしまう利用者がいて心当たりの畑に探しに行つて誘っています。家族が日中一人にしておくことを心配してデイの利用となっています
- ・一度拒否があった利用者を再度訪問したり、時間を見計らって電話をかけたりの対応をしています。ケアマネージャーとも情報共有に努めています
- ・日中独居の利用者でお迎え時便汚染があった時、衣類等交換して送迎しています
- ・家族と一緒に住んでいる利用者ですが全く支援を得られなくてお迎え時洗濯機の中の衣類を干してきます。また持ち物を確認し必要なものは引き出しより出して揃えてきます。送り時洗濯物を洗濯機に入れてまわしています。鍵を失くしてしまうので困っていますが、自分で鍵を持っていることで安心できるという本人の気持ちを尊重しつつどうしたら同じところに鍵を置けるかを検討しながら対応しています
- ・介護者の父親と舅二人が北部を利用しているため、二人分の衣類を預かり洗濯物は二人分を舅の家に届けています。介護者が洗濯のために父親宅を訪問する回数が減りました
- ・一人暮らしの利用者に朝電話を入れてから迎えに行くことでスムーズに出かけることが出来ています
- ・台風で突然デイサービスが休みとなった時、日中独居の利用者宅を家人の許可を頂き訪問してトイレ誘導し食事の見守りを行ったことがあります
- ・利用日以外に転倒等で困って電話してくる利用者や家族に対し訪問し支援することがあります。ケアマネージャーが行くより早く対応でき利用者からは信頼を頂いていると思います
- ・何度も救急車を要請する高齢者に対し、不安時は北部に電話をかけるように働きかけました。そして実際不安になって電話をかけてきた時は迎えに行きデイサービスに参加してもらいました。その後救急車を呼ばなくなりました

- ・個浴：自宅で入浴が難しい利用者に対し浴室内マンツーマンの入浴介助を行っています。プライベートを重視し利用者のこだわりにも配慮しつつ安全に入浴できるように対応しています
- ・排泄：失禁の多い利用者がトイレで排泄ができるようその人のリズムを把握しいろいろ工夫して介助しています
- ・月一回の勉強会の中で入浴委員会、排泄委員会、食事機能訓練委員会、口腔委員会をも持ちそれぞれ課題のある利用者について検討しています

◆北部老人福祉センターのサービスの意味

- ・高齢になって身体が動かなくなり憂鬱な気分になっている利用者を楽しい時間を過ごして元気になる
- ・北部に行けば自分の知っている誰かに会えるという安心を持って利用者同士がお互いに支えられる場所を提供する
- ・安心して気持ちよく入浴することができるため、利用する目的になる
- ・しっかりおいしい食事を摂ってもらい、食事が楽しみとなる
- ・家族の介護負担を軽減できるようどんな手助けができるかを考える
- ・住み慣れた自分の家にできるだけ長く暮らせるよう支援する